

ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* Wada & Sakai, 1989 の神奈川県からの産出記録

伊藤 寿茂・島津 恒雄

Toshishige Itoh and Tsuneo Shimazu:
Record of *Macrophthalmus banzai* Wada & Sakai, 1989, in Kanagawa
Prefecture, Japan.

Abstract. An adult male *Macrophthalmus banzai* (SL: 15.0 mm, SW: 23.4 mm) was collected with 28 individuals of *M. japonicus* from Ena Cove in Miura Peninsula, Kanagawa Prefecture, central Japan, in September 2016. This is the first record of *M. banzai* from Sagami Bay. This is probably the easternmost and northernmost record of this species in Japan.

はじめに

ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* は、泥質干潟に生息する比較的大型のカニで、オサガニ科 *Macrophthalmidae* に分類される。本種はかつて、ヤマトオサガニ *M. japonicus* と同定されていたが、行動や外部形態の違いが確認されたこと (Wada, 1978) に基づき、1989 年に新種として記載された (Wada & Sakai, 1989)。本種の分布域は静岡県以西の日本、及び朝鮮半島西岸、中国大陸山東半島、中国大陸南岸、台湾とされる (Wada, 1991; 和田, 1991; 逸見, 2012; 横岡・野元, 2013)。大部分の個体群が小規模であり、絶滅の危険性が高いことから、海岸ベントスのレッドデータブックにおいて、準絶滅危惧種に指定されている (日本ベントス学会 (編), 2012)。

この度著者らは、神奈川県東南端に位置する三浦半島の江奈湾内の干潟において、ヒメヤマトオサガニの生息を確認したので、神奈川県沿岸部からの産出記録として報告する。

材料および方法

2016 年 9 月 28 日に、三浦半島江奈湾内の泥質干潟において、ヤマトオサガニ類 29 個体を徒手採集した。その後、直ちに全個体の外部形態を精査したところ、1 個体がヒメヤマトオサガニに同定されたため、一時的に冷凍保存した。標本を解凍して、ノギス (松井精密株式

会社製 M 型ノギス) を用いて 0.1 mm 単位で甲長と甲幅を、電子秤 (株式会社エー・アンド・デイ製コンパクト天びん EK-600i) を用いて 0.1 g 単位で湿重量をそれぞれ測定して、写真撮影を行った後、99 %エタノールに浸漬し、神奈川県立生命の星・地球博物館に収蔵した。

結果

個体の種同定に用いた形態的特徴を図 1 に示す。

標本

標本番号: KPM-NH 0003011 (神奈川県立生命の星・地球博物館収蔵)

採集日: 2016 年 9 月 28 日

産地: 江奈湾 (神奈川県三浦市南下浦町松輪) の泥質干潟 (北緯 35° 8' 40", 東経 139° 39' 47")

採集個体数: 1 個体

性別: 雄

甲幅: 23.4 mm

甲長: 15.0 mm

湿重量: 4.6 g

外部形態

甲は四角く横長で、その前側縁には眼後歯を含めて 3 歯を持つ。第 2 歯は眼後歯の後方から深く切れ込み、第 3 歯は小さい。口前部は著しく窪み、突出しない。眼の先端は眼柄を寝かせた状態でも眼窩外縁を超えない。鉗

脚の指節近位端に大きな歯があり、そこから先端まで細かい歯が並ぶ。鉗脚の前節の咬合縁中央にくさび型の歯があって、その前後に細かい歯が並ぶ。鉗脚掌部の内側は無毛。以上の特徴を近縁種ヤマトオサガニと共有する。それらに加えて、鉗脚の色彩がヤマトオサガニと比較して白みを帯びる。オスの第3歩脚の前節と腕節の前縁に毛が密生する(図1)。以上の特徴を識別の根拠として(Wada & Sakai, 1989), 本個体をヒメヤマトオサガニと同定した。

考 察

本種はヤマトオサガニと比較して南方系の種とされ、近年に駿河湾西部の大井川下流域で記録されるまで(横岡・野元, 2013), 紀伊半島が分布の東限であった(Wada, 1991; 和田, 1991; 逸見, 2012; 岸ほか, 2016)。ヒメヤマトオサガニが新種として記載された後に、相模湾とその隣接海域、及びそれ以东や以北の地域で、カニ類

を対象として実施された調査の報告書や、図鑑といった既往文献(工藤・山田, 1997; 松川浦団体研究グループ, 2003; 朝倉・森上, 2007; 伊藤・根本, 2012; 日本ベントス学会(編), 2012; 横岡・野元, 2013; 柚原ほか, 2015; 横岡ほか, 2015; 岸ほか, 2013; 岸ほか, 2015; 岸ほか, 2016; 特定非営利活動法人 OWS, online)においても本種は報告されていない。よって、本報告は標本に基づくヒメヤマトオサガニの相模湾における確実な記録として、現段階では初めてのものとして取り扱うべきものであり、本種の分布の東限、北限記録の暫定的な更新とみなされる。しかし、本種が新種として記載される以前に収集されて標本登録されたヤマトオサガニや、写真や画像として記録されたヤマトオサガニの中には、精査によってヒメヤマトオサガニと再同定される個体が含まれている可能性がなお残されており、今後の調査によっては、今回の個体が本地域における初記録の地位を失ったり、本種の分布の東限や北限が修正されることもあり得る。また、情報が不足している現状では、愉快犯的な放野の可能性も完全には否定できない。今後、得られた個体が在来であるかどうかも含めて調査を行うとともに、相模湾及びその周辺地域で採集された標本を精査し、ヒメヤマトオサガニの確実な記録を検討する必要があるだろう。

謝 辞

本報告を行うにあたり、奈良女子大学名誉教授の和田恵次博士には、既存文献に関する有益な情報を賜った。新江ノ島水族館の堀由紀子館長、堀 一久氏をはじめとする展示飼育部の方々には、本報告の機会を与えて頂き、貴重な助言を賜った。これらの方々から感謝の意を表するとともに、再三にわたりご校閲を賜った編集委員会ならびに査読者の方々に心よりお礼を申し上げます。

引用文献

- 朝倉 彰・森上 需, 2007. 千葉県河口域のカニ類. 海洋と生物, 29(4): 355-365.
- 伊藤寿茂・根本 卓, 2012. 相模川河口域で観察されたカニ類—特にタイワンヒライソモドキ *Ptychognathus ishii* Sakai, 1939 (モクズガニ科) の初記録とコムツキガニ *Scopimera globosa* (de Haan, 1835) の再記録—. 神奈川県自然誌資料, (33): 45-53.
- 逸見泰久, 2012. ヒメヤマトオサガニ. 日本ベントス学会編, 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック, 212 pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 岸 由二・江良弘光・江良美穂, 2016. 改訂増補版 小網代の谷のカニ図鑑. 64 pp. NPO 法人小網代野外活動調整会議, 横浜.
- 岸 由二・小倉雅實・江良弘光・柳瀬博一, 2013. 小網代干潟における無脊椎動物の多様性・RD 種に関する予報. 慶應義塾大学日吉紀要, 自然科学, (54): 71-84.
- 岸 由二・小倉雅實・江良弘光・柳瀬博一, 2015. 小網代干潟における無脊椎動物の多様性・RD 種に関する続報. 慶應義塾大学日吉紀要, 自然科学, (58): 19-31.

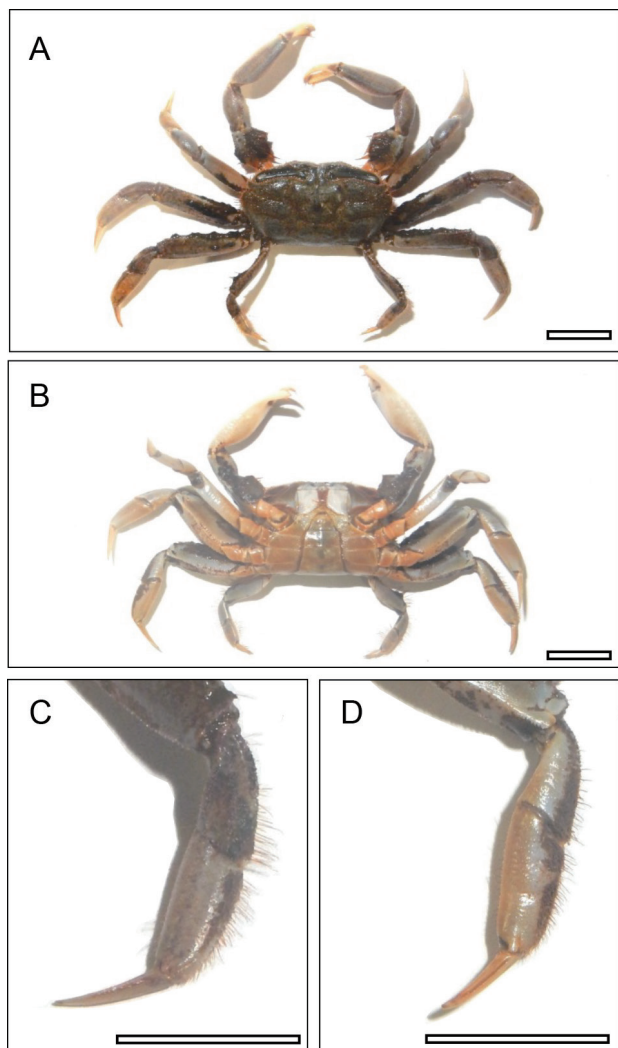


図1. 江奈湾(神奈川県三浦市)で採取されたヒメヤマトオサガニ。A:背面。B:腹面。C:右第三歩脚(背面側)。D:左第三歩脚(腹面側)。スケールは全て10 mm。

- 工藤孝浩・山田陽治, 1997. 三浦半島, 江奈湾干潟におけるハクセンシオマネキの出現. 神奈川自然誌資料, (21): 69–72.
- 松川浦団体研究グループ, 2003. 福島県相馬市松川浦の干潟における底生生物とその生痕. 地球科学, 57: 31–48.
- 日本ベントス学会 編, 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. 285 pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 特定非営利活動法人 OWS, online. 活動 2: 干潟生物調査. 三浦半島・江奈湾干潟保全プロジェクト <http://www.ows-npo.org/higata-hozen/> (accessed on 2017-August-22).
- 柚原 剛・田中正敦・阿部絢香・海上智央・多留聖典, 2015. 多摩川河口の塩性湿地に生息する表在性ベントス相. 神奈川自然誌資料, (36): 25–30.
- 横岡博之・野元彰人, 2013. ヒメヤマトオサガニの静岡県における生息地の記録. 南紀生物, (55): 137–140.
- 横岡博之・柚原 剛・田頭亮臣, 2015. ヒメヒライソモドキの静岡県における生息地の記録. *Cancer*, 24: 29–45.
- Wada, K., 1978. Two forms of *Macrophthalmus japonicus* De Haan (Crustacea: Brachyura). Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 24(4–6): 327–290.
- Wada, K., 1991. Biogeographic patterns in wavintg display, and body size and proportion of *Macrophthalmus japonicus* species complex (Crustacea: Brachyura: Ocypodidae). *Zoological Science*, 8: 135–146.
- 和田恵次, 1991. ヤマトオサガニ同胞種 2 種の生物地理. 海洋と生物, 13(6): 442–447.
- Wada, K. & K. Sakai, 1989. A new species of *Macrophthalmus* closely related to *M. japonicus* De Haan (Crustacea: Decapoda: Ocypodidae). *Senckenbergiana Marit*, 20: 131–146.

伊藤 寿茂・島津 恒雄：新江ノ島水族館